

『今月の天候と農作業』

通巻第5662号

4月号

令和4年3月24日発行

宮崎県

宮崎地方気象台



【 予報のポイント 】

寒気の影響を受けにくいと、九州南部の向こう1か月の気温は高いでしょう。

【 確 率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	20	30	50
降水量	九州南部	30	30	40
日照時間	九州南部	30	40	30

【 予想される向こう1か月の天候 】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。

<1 週目の予報> 3月26日(土)～ 4月1日(金)

低気圧や前線の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。

<2 週目の予報> 4月2日(土)～ 4月8日(金)

天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<3 週目から 4 週目の予報> 4月9日(土)～ 4月22日(金)

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

※明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報

(<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>)を参照してください。

普通作物

◆早期水稲

1 田植え後の水管理

活着までは茎葉からの水分蒸散量を抑えるために深水で管理しましょう。その後は、浅水で管理し、水温上昇に努めます。なお、晩霜の予報が出された場合は深水で保温します。

2 病虫害対策

いもち病の対策として、箱施薬を行いましょ。補植用の余り苗は、いもち病の発生源となるので、早めに処分します。スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生を確認したら、浅水管理や薬剤での防除を行いましょ。

3 除草対策

除草剤はラベルの記載内容を必ず確認し、ヒエの葉齢を見て、散布遅れがないようにしましょ。処理後7日間は掛け流しをせず止水します。ジャンボ剤はしっかり拡散するよう処理時に5cm以上の水深を確保しましょ。田植同時処理では、薬害の対策として、田面の均平や植付深度、田植後の土の戻りに注意し、田植後は速やかに入水します。

散布遅れや水管理不足等で雑草が残ってしまった場合には、速やかに中後期除草剤で処理しましょ。

◆麦類

赤かび病防除のため、小麦では穂揃期（開花期）に、二条大麦では穂揃期から7～10日後（蒴殻抽出期）に防除し、その7日後に2回目の防除を行いましょ。

湿害を回避し、収量の安定化のために作溝するなど排水対策を徹底しましょ。

（福川 泰陽）

施設野菜

◆きゅうり

日中の気温上昇と、日射量の増加に応じてかん水量を増やします。また、葉に強い直射日光が当たると、葉の老化や葉焼け症等が発生するので、日中はカーテン等を利用して日射量を調節します。湿度の低下は、曲がり果や尻細果等の発生が増加するため、ハウス内が乾燥している場合には、通路散水等による湿度確保に努めます。

◆ピーマン

茎葉が繁茂し、光線の透過不足等による白果や収穫遅れによる赤果の発生、成り疲れ等によるうどんこ病の発生が予想されるため、適期収穫を徹底し、光線を遮っている茎葉の整枝・せん定を行います。また、土壌水分が不足すると草勢が著しく低下するため、こまめなかん水・追肥による草勢維持に努めます。

◆トマト

ミニトマトは気温上昇に伴い裂果が多くなるので、収穫時の着色度合いを調整します。また、空中湿度を下げるために日中の換気を徹底し、収穫遅れがないよう適期収穫に努めます。

◆いちご

日中の温度の上昇や日射量の増加により、果実温度が上昇し、傷みによる事故が増加しないように、収穫前後の品温に注意します。

また、親株育苗では、健全な親株を簡易検定で確認しながら、炭疽病の感染の疑いのある苗は早期に除去・処分するなど、万全の対策を実施します。

(吉山 健二)

葉茎根菜類・いも類

◆栽培ほ場の土壤水分の確保

今月は上旬からマルチ栽培のかんしょ、さといも、しょうがの植付け及び各種夏野菜のは種適期です。土壤が乾燥した状態でマルチ被覆を行うと発芽不良や生育障害、品質低下につながるため、適当な土壤水分（手で握って団子になる程度）の時に畝立てマルチ張りを行います。

◆さといも

早生種のマルチ栽培は萌芽の時期です。萌芽したらマルチに穴を開けて芽出しを行います。

疫病の伝染を防ぐため、種芋採取後の残さは放置せず、速やかに耕耘し、細かく破碎し分解させるか堆肥化します。

◆食用かんしょ

露地栽培の植付けが始まります。苗は灌水を徐々に減らし、外気に徐々にさらして順化させます。上旬は遅霜や平均気温が下がることで植付け後の活着が悪くなるので、気候の変化に注意します。採苗は植付け3～5日前の午後に行い、地際から5cm以上離して切り取り、薬剤で消毒します。調整後の薬剤は日光や汚れなどで分解しやすいため、一日を目安に使い切ります。苗は温湿度を保ちながら数日保管すると発根が良くなります。

◆スイートコーン

大型・小型トンネル栽培は、4月上～中旬の雄穂抽出期が追肥の時期です。雄穂が出始めたら窒素成分で10aあたり5～6kgを追肥します。雄穂抽出から10日～2週間後に雌穂（絹糸）が抽出し果実となります。トンネル内の高温による葉焼け等を防止するため、ビニールの開閉管理や除去には十分注意します。株元からの分けつは、光合成して養分確保を行うので、除去しません。

(川崎 佳栄)

果樹

1 常緑果樹

◆ かんきつ全般

今年の発芽や開花日は平年並から数日早くなると予想されています。花の充実不足に伴う生理落果を防ぐために、発芽期から開花期にかけて窒素主体の葉面散布を数回行います。着花が多くなりそうな園地では、必ず行いましょう。

◆ 完熟きんかん

まだ剪定が終わっていない園は、必ず四月上旬までに実施します。たっぷりのかん水、春肥の施用、完熟堆肥等の有機物の投入によって樹勢回復を図ります。

発芽揃いを良くするために施設内の蒸し込みを行うとともに、新梢の充実を図るため、窒素主体の葉面散布を数回行いましょう。

◆ マンゴー

早期作型の本格的な収穫時期です。収穫が近づくにつれて果皮が弱くなり、果皮の結露が原因と考えられる「あざ果」や「やに果」が増加してきます。品質向上のために、ハウス内の急激な温度変化を防ぎ、ヒートポンプや早朝の換気による除湿によって結露を防止します。また、次第に日射が強くなり、日焼け果が発生することがあります。カーテンや遮光ネットを利用し、日焼けを防止しましょう。

2 落葉果樹

◆ かき

摘蕾は生理落果後の摘果に比べて、樹体養分の確保や翌年の花芽分化に有効です。開花始め頃から二分咲までの間に実施します。1結果枝当たり1花残すことを原則とし、長い結果枝には2～3花とします。

(鈴木 美里)

花 き

◆電照ギク

曇雨天の日が続くと、ハウス内の湿度が高まり、白さび病が発生しやすくなるため、定期的に防除を行いましょう。

年末以降の出荷作型に向けた親株育成の時期となります。作型や穂冷蔵の有無等の条件を考慮し、計画的に作業を進めましょう。

◆夏秋ギク

5、6月出荷作型の「フローラル優香」では、低温により貫生花が発生しやすくなるため、4月中は10℃、消灯後3週間程度は16℃の夜温を確保しましょう。

また、「精の一世」の7月以前の出荷作型では、低温により幼若性を獲得する恐れがあるため、消灯前は13℃程度、消灯後は18℃程度の夜温を確保します。

◆スイートピー

受粉から子実の肥大期となります。

着莢を促すために、つる下げにより草勢を弱めたり、採種率の低い品種は株を揺らしたりするのが効果的です。

また、充実した大きな種子を得るために、定期的にかん水や施肥を行いましょう。

◆ホオズキ

7月出荷作型は4月中～下旬、8月出荷作型は4月下旬～5月上旬にはマルハナバチを導入して着果の促進を図ります。

日中のハウス内温度が15℃を下回ると、花粉の発芽不良やマルハナバチの活動停滞により着果不良になりやすいため、保温に努めましょう。

◆シキミ

春芽の萌芽時期です。

定期的な防除を実施し、黒しみ斑点病やサビダニ類の発生を抑えましょう。

◆ラナンキュラス

球根養成期となります。

養成株は蕾をできるだけ早めに摘除し、徐々にかん水頻度を減らすことで、球根の肥大を促しましょう。

(藤原 明紀)

畜産

◆ 家畜防疫対策

豚では、国外で、ASF（アフリカ豚熱）の発生が続いており、国内への侵入リスクが高まっています。

鶏では、渡り鳥が大陸に帰るまでは、鳥インフルエンザの発生リスクが残りますので、気を緩めることなく、侵入防止対策の徹底を行います。

その他の家畜伝染病から農場を守るためにも、畜舎内外の消毒はもとより、人・車両・物資の消毒と野生動物等の侵入防止対策を徹底し、農場にウイルスを侵入させないように、飼養衛生管理基準を遵守します。

◆ 家畜

今月は、外気温の日較差が大きくなり、家畜や家禽の免疫力が低下しやすくなるため、呼吸器病等の感染症が発生しやすい時期となります。

このため、朝夕の畜舎カーテンの開閉や舎内温度が上昇する昼間の換気扇による換気、細霧による湿度管理等を行い、舎内の温湿度環境を整えるようにします。また、病気の発生時は早期対処ができるように、家畜の健康状態の観察を徹底します。

◆ 飼料作物

今月は、早播きのトウモロコシやソルガムの播種時期です。作付けする前に土壌分析を行い、適切な肥培管理を行います。

イタリアンライグラスの収穫も本格化します。収穫適期の出穂期は、圃場全体の四～六割が出穂したときです。適期収穫を行います。

(藤井 真理)

特用作物

◆ 茶

1 防霜対策

一番茶の生育に合わせ、防霜ファンの設定温度の確認や首振り角度、回転方向、スプリンクラーヘッドの詰まり等を確認し、誤作動により霜害が発生しないよう注意しましょう。

2 芽出施肥と防除

芽出し肥は、硫安等の速効性肥料を摘採の25日前までに散布しましょう。カンザワハダニは気温上昇に伴い密度が高まるため、発生状況に注意し、地域の栽培暦に準じて葉裏にかかるよう丁寧に薬剤散布しましょう。また、ツマグロアオカスミカメやマダラカサハラハムシ、コミカンアブラムシ等の発生にも注意してください。

3 一番茶の摘採及び製造

単価アップのためには良質生葉の生産が不可欠です。茶工場の処理能力や一番茶の生育状況・降雨等を考慮し、「摘み遅れ」とならないよう摘採計画を立て適期摘採に努めましょう。また、事前に摘採機の刃研ぎや製茶機の点検・清掃・試運転等を行い、トラブル回避を図りましょう。摘採時は摘採袋等への生葉の詰め過ぎを避け、摘採後は速やかに(30分以内)茶工場へ持ち込み、欠陥の無い荒茶製造に努めましょう。荒茶への異物混入防止対策にも、万全を期してください。

(松尾 啓史)

◆ しいたけ

1 選別

乾しいたけは、用途に応じて取引されるので、商品価値を高めて販売するためにも、規格表を参考に選別します。特に、次の点に注意します。

- ①異物(ほだ木の樹皮、虫、金属類等)は絶対入れない。
- ②乾燥不良、虫害、カビ、黒子など規格外品は絶対に混ぜない。
- ③3cm以下を他のサイズに混ぜない。
- ④バレと縁に巻きがあるものとは別々にする。
- ⑤できるだけ種菌、採取時期、日和子、雨子別に行う。
- ⑥丸形と変形とは区別する。
- ⑦湿度の低い晴天時(雨天時は避ける)を選んで行う。

2 箱詰め

箱詰めは、最初からたくさん入れずに、まず二分入れて揺すり込み、さらに四分、六分、八分と入れ、最後に十一分ほど入れて丹念に揺すり込みます。箱詰めがゆるいと、輸送途中で欠け葉を生じ、商品価値の低下を招く恐れがありますので注意が必要です。

3 採取

気象情報に注意しながら適期採取に努めます。

(堀川 和也)

◆たばこ

今月は、土寄・ほ地内環境整備と、収穫・乾燥に向けた準備が主な作業となります。

- 1 土寄は、植付け三〇日～四〇日経過して、作柄に応じて実施しましょう。時期が早すぎると幹が傷つき、腰折病等の病害発生の原因となります。また、遅すぎると肥料吸収が遅れ、作柄が晩作化します。

不定根の発達を促進し本葉系を充実させるために、土寄は確実に実施しましょう。植穴の固結や畦内土壌の固いほ地の対応として、土壌をほぐしながら穴埋めすることが大切です。特にローラー土寄を行なった際には、土が寄せられているか確認手直しを行い、株元までしっかり土寄を行いましょう。

- 2 ほ地内に水が溜まると、生育不良や病害発生の原因となります。必ずほ地周囲や枕地に、ほ地の形状に合わせて排水溝を設置するようにしましょう。
- 3 異物混入防止のため、植付け穴のちぎれそうなマルチや、ほ地内に落ちているマルチ片を回収しましょう。
- 4 収穫・乾燥へ向けて作業場・貯蔵庫の清掃、使用物品の点検更新、及び乾燥機の点検・空焚きを実施しましょう。
- 5 農薬を使用する際には「たばこ用農薬の使用基準」を遵守し、他作物へのドリフト（農薬飛散）が無いよう注意しましょう。また、使用後には「農薬使用実績票」等に必ず記帳しましょう。

(宮崎県たばこ耕作組合)

内容の詳細について

4月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県総合農業試験場及び森林経営課、宮崎県たばこ耕作組合が担当しています。各作物の病虫害の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

☆「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

(<http://nougyoukishou.pref.miyazaki.lg.jp>)

向こう 1 カ月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稻	いもち病	—	置き苗は、いもち病の発生源や伝染源となるため早めに処分します。箱施薬をしていないほ場で、イネミズゾウムシの発生が目立ち始めたら粒剤の水面施用を行います。 スクミリンゴガイの生息数が多い場合は、捕殺あるいは粒剤を水面施用します。また、用排水路からの侵入を防ぐため、水の出入口にネットを設置します。
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	— —	
野菜・工芸作物	アブラムシ類	並	各種植物ウイルス病を媒介するため、早期発見・防除に努めます。
冬春きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病	やや少 並 少 並	気温の上昇に伴い各種病害の発生に好適な条件となるため、気象の変化には細心の注意を払い、施設内の温湿度管理を徹底します。いずれの病害も多発してからでは防除効果が上がりにくいいため、予防・初期防除に重点をおきます。 また、罹病葉は伝染源となるため、摘葉後はほ場外に持ち出し適切に処分します。
	黄化えそ病 (MYSV)	やや多	
	ミナキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少 並	黄化えそ病の感染株を確認した場合は、速やかに罹病株を抜き取り、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理します。 また、本病を媒介するミナキイロアザミウマは、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくいいため、最少でも7日間隔で3回の連続防除を行います。
冬春ピーマン	うどんこ病 斑点病 黒枯病	やや多 並 やや多	いずれの病害も多発してからでは防除効果が上がりにくいいため、予防・初期防除に重点をおきます。被害茎葉等は伝染源となるため、整枝後の残渣等はすみやかに持ち出し処分します。 アザミウマ類は、気温の上昇とともに増殖しやすくなるため、発生初期に防除を行い、中～多発生のほ場では短い間隔で定期的に薬剤散布を行います。ヒラズハナアザミウマは主に花に生息するため、着花の少ない時期の丁寧な防除が効果的です。
	ミナキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	やや少 並 やや多	
冬春トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 うどんこ病	並 やや少 並 多	うどんこ病の発生が多くなっています。上位葉への進展が見られるなど病徴の激しいほ場においては、1回散布では防除効果が現れにくいことがあるので、1週間間隔で2回以上の防除を実施します。 タバココナジラミは、気温の上昇に伴い活動・増殖が活発になります。効果のある薬剤が少ないことから、発見したら早めに防除し、密度低下に努めます。
	タバココナジラミ	並	
冬春いちご	うどんこ病 灰色かび病	やや少 並	いずれの病害虫も多発してからでは根絶は困難なため、低密度のうちに定期的な防除を行います。 ヒラズハナアザミウマの発生が多くなっています。本虫は寄生花率10%以上で被害果が発生する恐れがあります。低密度時に防除を徹底します。また、青色粘着板を設置し、誘殺による継続的な密度低下を図ります。
	ハダニ類 オシロコジラミ ヒラズハナアザミウマ	少 やや多 多	
カンキツ	そうか病 かいよう病	— —	罹病した枝葉は春葉への伝染源となるため徹底的に除去します。また、春葉での感染が多いと開花後果実への感染を抑えることは難しいので、発芽初期から展葉期の防除が重要になります。 ミカンハダニの要防除水準は、寄生葉率30%あるいは葉当たり寄生虫数0.5～1頭です。
	ミカンハダニ	やや少	
茶	カンザワハダニ	やや多	一番茶萌芽期以降発生が多い場合には、農薬使用基準の摘採前日数等に注意して防除します。

- 1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。
- 2) 宮崎県病害虫防除・肥料検査センターのホームページアドレスは、<http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>です。

